

入 選

たくさんの笑顔のために

土浦日本大学中等教育学校

二年 二 木 沙 織

私は、小学校四年生の夏休みに、「すごいね！みんなの通学路」という本を読み、読者感想文を書いたことがあった。その本の中で、水を確保するのは子供や女性の仕事のため一日何時間も歩いて、水を汲んでくるという大変な思いをしている子供や女性がたくさんいるということを知った。その時、そんなことは私にはできないと思ったことを覚えている。また、それに時間を費やしてしまうので私と同じ中学生や小学生なのに、学校に通えないということも初めて知り、とても強い衝撃を受けた。この本は、それまで当たり前だと思っていた私の身の回りの水に対して関心を持つきっかけになった。

私たちは最近、SDGsという言葉をよく耳にす

る。その中でも目標6「安全できれいな水とトイレを世界中に」は、私たちが生きるのに欠かせない水を世界中すべての人が使えるようにしようという目標である。詳細を調べたところ、私が知らないことがたくさんあった。その一部を紹介する。

人間の体の七十％は水でできている。しかし、地球上のすべての水のうち私たちが利用できる水は、たったの0・01％。この水で七十七億人が生活しているのである。しかし、今、世界では十人に三人がきれいな水を手に入れられていない。汚れた水は、自然環境や健康にも影響する。不衛生な水は、病気にかかったり、感染症を引き起こす原因にもなった。それは、有害な物質が水の中に含まれているからである。また、冒頭でも挙げたように、水を確保するのは、子どもや女性の役目で、確保するのに何時間も歩いて取りに行く。それに、一度に持つてくることができる水には限りがあるのでどうしても何度も往復するしかなくなってしまう、一日を水の確保に費やすしかない、一方、日本の水は、蛇口をひねればいつでもきれいな水が出てくる。しかし、

そのような国は数えられるくらいしかない。日本の人々は水を無駄なく使うために知恵と工夫をたくさん張り巡らせて、モノづくりをしている。例えば、水を無駄なく使う棚田、地元の水で作るお酒や織物、水のエネルギーを電気に変えるダムなどがある。このように、清潔な水が手に入れば、町の発展にもつながる可能性はある。

私は地球上のすべての水のうち0・01%の水しか利用できないことに驚いた。さらに、十人に三人がきれいな水を手に入れられないことにも驚いた。今回水について調べたことにより、日本に住んでいたら分からない水不足も、世界では、多くの人が水不足で命を落としていたり、水不足に苦しんでいたりにしていることが分かり、現代の水不足はとても深刻なのだと改めて理解することができた。

私が住んでいる河内町は、おいしいお米やレンコンが特産物だ。お米もレンコンも作る過程ではたくさんのおいしい水を利用している。たくさんのおいしい農作物が作られるには、たくさんのおいしい水が必要だ。私たちの生活には水が必要で、安全な水があるから、

幸せな笑顔がたくさん広がっていると考える。私はとても幸せなのだ、今感じている。

安全な水が不足していることを解消するために、私たちができることは、水を節約して生活すること、水不足で困っている人たちがいるということを常に考え、生活することだと思う。さらに、水不足には、地球温暖化も影響している。だから、地球温暖化を止められるように努力することも苦しむ人をこれ以上増やさないことの第一歩だと考える。

私は、これまでもできるだけ水を節約するように心がけていたが、世界中には水不足で苦しんでいる人がたくさんいることを意識して、生活していきなさいと思う。そして、世界中に笑顔がたくさん広がることを、私は願っている。